

聴覚障害者の感じる社会的バリアとは？
～難聴擬似体験を通して～

聴覚障害に対する誤解

- 補聴器や人工内耳を装用すれば聴者と同じように聞き取れる。
- 口形を読み取ることで全てを理解できる。
- 手話や筆談という方法を用いなければ全くコミュニケーションがとれない。
- 発音が比較的明瞭な聴覚障害者の場合は、見かけ上障害の程度が軽度にとらえられてしまい、聞こえないことに対する配慮がほとんど忘れられてしまう。

難聴擬似体験を始めた理由

- 聴覚障害者自身が困難さや支援を訴えない限り、情報を正しくかつ十分に得られないことによって生まれる「社会的バリア」にはなかなか気づいてもらえない。
- 聴覚障害に起因する「社会的バリア」に関する理解を少しでも深めてもらいたいと考えて、平成21年から本校高等部生徒の進学先の大学で実施してきた。
- 平成23年度からは、聴覚障害生徒の障害認識を深め、聴覚障害に起因する「社会的バリア」を軽減する方法を考えさせるために自立活動等で実施してきた。

難聴擬似体験の意義

- 聴者の中に、一人だけ聴覚障害者（難聴者）がいる体験→社会的バリアを感じ取る体験ができる。
- 「どのようにわからないか」という体験ができる。
- 「わからないこと」から生じる感情を体験できる。
- 「どのようなサポートがあればわかるか」ということを考える体験ができる。

難聴擬似体験時のルール

1. 文字(空書)を使わない。
2. 指文字・手話を使わない。
3. 聴者役の学生が難聴者役の学生を助けてあげる時は、音声言語で伝える。
【聴者が話すような話し方で】
4. 難聴者役の人は、ヘッドホンをとらない。

読話（どくわ） 読唇（術）

- ① 唇の動きを読み取る「読唇」を中心にして、
- ② 会話の流れやその場の状況、表情などの情報を加えて、会話の内容を判断すること。

【読話】 課題1

- ○○○
- 三音節であることは、わかる。
 - ① なまこ
 - ② たまご
 - ③ たばこ
- 口形の微妙な違いは、簡単に区別できない。

【読話】 課題2

次の場合はどうか。

「朝ごはんのおかずは、〇〇〇焼きだった。」

文脈の流れで「たまご」とわかる。

【読話】 課題3

- ○○○○
- 四音節であることは、わかる。
 - ① ほうちょう(包丁)
 - ② こうちょう(校長)
 - ③ ほうそう(放送)
 - ④ とうちょう(盗聴)
 - ⑤ どうりょう(同僚)
- 口形の微妙な違いは、簡単に区別できない。

【読話】 課題4

次の場合はどうか。

- ① 「○○○○○で指を切った。」
- ② 「気の合う○○○○○がいない。」
- ③ 「入学式で○○○○○先生が祝辞を述べた。」

文脈の流れで、何と言っているのかわかる。

【読話】 課題5

- 手がかりなしで四字熟語を話す。
- 「四字熟語」言って話す。
 - ① 異口同音
 - ② 温故知新
 - ③ 大器晩成
 - ④ 前代未聞
- ※ ヒントやキーワードがあると、読話できる言葉が増える。この四字熟語を知らないと読話できない。

【読話】 課題6 文の読話

① 手がかりなしで一文を話す。

② 概要の説明を行う。

「部活動の練習」の連絡である。

明日の練習は、 時から始めます。

1時？ 2時？ 7時？ 8時？

③ キーワードを入れる。

明日の練習は、朝7時から始めます。

読話の難しさ (1)

「約70年前に第二次世界大戦があった。」

→口形だけで理解できるか試してみる。

《説明》 頭の中で行われていること

- ① 「約70年前」か「170年前」のどちらかわからないから、保留にしよう。
 - ② 「第〇次対戦」は読唇出来た。「第一次」か「第二次」しかない。話の流れから「第二次」だ。
 - ③ 「第二次世界大戦」は「太平洋戦争」のことで、昭和20年に終わった戦争だから、「170年前」ではなく、「約70年前」ということになる。
- ①～③の思考が行われている瞬間にも話は続いている。

読話の難しさ(2)

読話できるかどうか

日本語の力

(語彙力、文法力、文脈から次に来る日本語の単語を予測する力)

→(携帯やスマホの単語予測機能のような力)がかなり影響する。

「今年は受験があるから、家族旅行は〇〇〇にするよ。」

家族旅行は、どこに行くか？

ちかば→近場

- ① 「近場(ちかば)」という単語を知らないと読話できない。
- ② 「近場」を「きんじょう」と覚えていたら読話できない。

脇中起余子(2009)「聴覚障害教育これまでとこれから
コミュニケーション論争・9佐の壁・障害認識を中心に」

【読話】についてのまとめ

- ① 読話の難しさ→特に口形が同じ言葉は読み取りにくい。
- ② 文脈の流れがヒントになる。
- ③ 話の「概要」「テーマ」「キーワード」が示されると、わかりやすい。
- ④ 聴覚障害者の「日本語の力」が影響してくる。
→語彙として獲得していない言葉は読話できない。
- ⑤ 口形を読み取っているだけでなく、推測・予測している。
- ⑥ 読話をするためには、多大なエネルギーを要する。

【指示を聞いて行動する体験】

(難聴者役は、課題毎に交代する)

課題①

あなたの持ち物の中で、一番高価なものを出して、前の机に置いてください。

難聴者役の人の感想

【指示を聞いて行動する体験】

課題②

A

身長順に並ぶ。

B

大学までの通学時間が短い順に並ぶ。

(短時間の方が前。)

誕生日順に並ぶ、学年順に並ぶ等の課題は
工夫できる

難聴者役の人の感想

課題③

指示に従って、起立する。

①～⑥の課題を声を出さずに話す。難聴者役の人間が戸惑っていてもそのまま進める。

- ① スカートををはいている人。
- ② メガネをかけている人。
- ③ 「そだねー」という言葉、誰が流行らせたか知っている人。
- ④ 血液型 AB型の人。
- ⑤ 肉料理と魚料理、どちらかと言えば肉料理が好き。
- ⑥ 「ぼーっとして生きてんじゃねえよ。」は誰の台詞？知っている人？

難聴者役の人の感想

課題④

グループに分かれる。

- A 将来は東京以外に住みたい人は右側へ？
東京以外に住むなんて考えられない人は
左側へ。
- B 朝食は、パン派か？ ご飯派か？
- C 誕生日が奇数の人は右側へ、誕生日が偶
数の人は左側へ。

難聴者役の人の感想

【指示を聞いて行動する体験】

課題⑤

今の自分にとって、最も大切なもの、あるいは最も大切なことは何ですか。紙に書いて、提出してください。

難聴者役の人の感想

課題⑥

グループに分かれて話し合います。

課題は次の通りです。

みなさんは、耳の聞こえない人たちに接したことがある人、接したことがない人、様々だと思います。

耳の聞こえない人について、「不思議に思うこと」、「疑問に思うこと」を、みんなで話し合って五つにまとめて、この紙に書きなさい。

※課題の内容は、様々考えられる。参加している集団に応じて考える。

難聴者役の人の感想

難聴擬似体験で気づいてほしいこと

- ① 聞こえにくいために自分が置かれている状況が度々言う状況なのかわからなくて不安になる。
- ② その場で話題になっていることやどう行動すべきなのかなどの情報が得られずに、一人だけ取り残された気持ちになる。
- ③ 周りの状況から判断したり、キーワードを読み取ろうとしたりするが、本当に正しいのだろうかという不安は尽きない。
- ④ 周りの人に聞きたくても、実際はなかなか聞くことができない。

まとめる前にもう一つ、課題。

太郎君と花子さんは、アツアツのカップルです。

ある日、いつものように駅で待ち合わせしていました。
先に花子さんが着き、待っていましたが、約束の時間を過ぎても太郎君がなかなか来ません。

30分待っても来ないし、メールしても電話しても全く
応答がないので、花子さんはカンカンに怒って帰って
しまいました。

実は・・・

実は太郎君は仕事がとても忙しく、前日に帰宅したのが夜の2時過ぎでした。

「疲れているので明日会うのは延期にしたい」と連絡したのですが、花子さんは「え～っ！明日の為に私がどれほど苦勞して休暇をとったと思っているの？！」というのです。

太郎君は寝坊してはいけないと思い、ありったけの目覚まし時計3つをセットして寝ました。

しかしそれでも起きられないほど、かなり疲れがたまっていたのです。

ところが...

いつもはもっと長く待てる花子さんでしたが、この日は30分で帰ってしまいました。

花子さんは待っても来ない太郎君はもう無視して、別の男性に連絡して会っていたのでした。

実は...今までずっと太郎君にバレないように、別の男性とつきあっていたのでした。

要するに・・・

情報

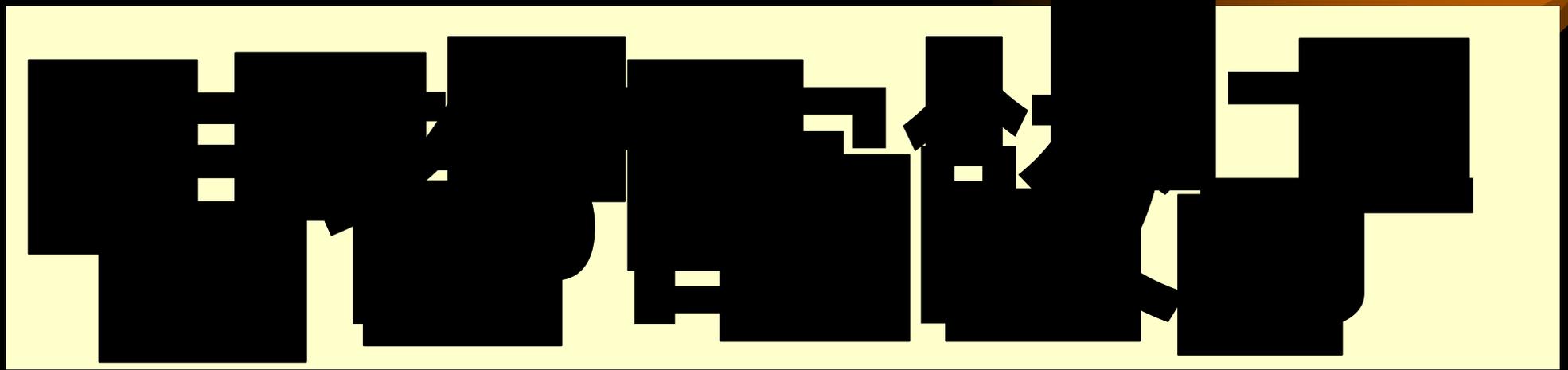
①内容把握

②価値判断

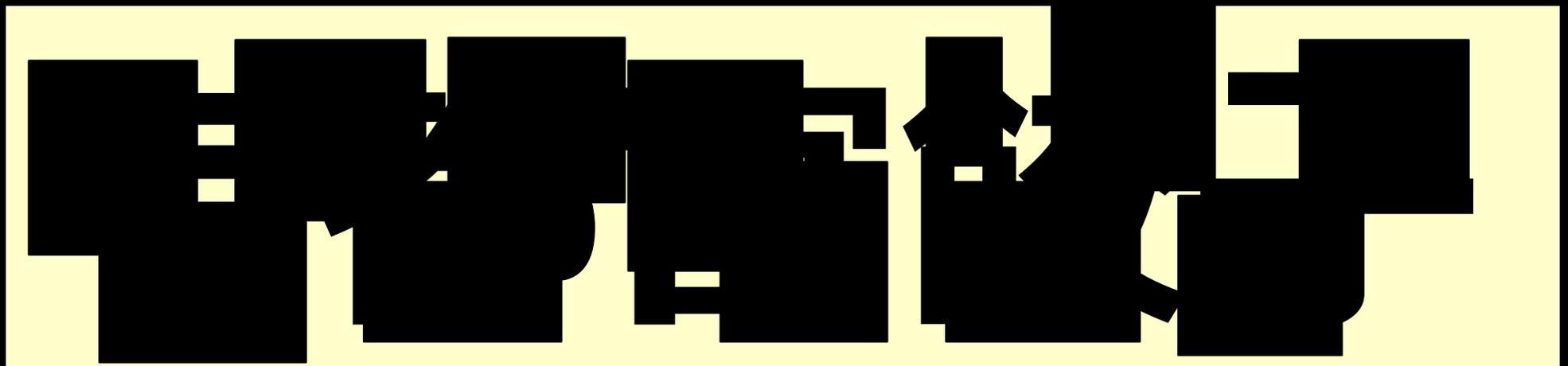
情報量の差

知識量だけでなく**価値観**にも多大な影響。
(場にそぐわない行動・判断になりやすい)

情報をパズルに例えると...



情報のピースを集めると...



要するに・・・

情報 ≡ パズルのピース



様々な情報(ピース)を組み合わせ、
欠けているところを想像で補う



非常に大きなエネルギーが必要!!
ピースが多ければ多いほど確実性が増す
だけでなく、**ストレスが大幅に軽減される**

まとめると・・・

自分の置かれている状況がわからず不安 孤独感

周り
限ら
(本

単に「聞こえにくい」だけでなく、
社会的なバリアが存在する！

う)

周りの人と同じように、実際は聞こえて

ものの考え方や価値判断の基準が周囲と
異なってしまい、浮いてしまう可能性もある

情報保障の必要性

単に「聞こえにくい」だけでなく、
社会的なバリアが存在する！

理解され
にくい部分

聴覚障害学生
自分で説明できる力を！
「分からない。情報保障が欲しい」
だけで終わっていないだろうか？

しかし、現実には・・・

ピース（情報）提供の限界

- ・莫大な労力、コスト
- ・高度な専門技術 等々

ピース（情報）は提供できません

ピース（情報）は提供できません・・・

そこで読話を思い出してみよう

「明日は7時に集合」を口形で読み取る

- ・読唇の難しさ
- ・「部活の連絡」「朝」などの補足情報があると理解が格段に向上する

おもしろい事実

ピース（情報）は提供できません・・・
その代わりに、**手がかり**を提示します。

- ①宮城県出身
- ②男子フィギュアスケート世界のスター
- ③冬季オリンピック2連覇
- ④国民栄誉賞受賞

手がかかり

テーマや話題

自分の持っている知識・経験

話し手の表情、場面の雰囲気や背景 など

手話通訳やNTなど大がかりな保障だけでなく、
ちょっとした手がかかりの提示も重要な情報保障。

(→身近でかつ現実的な情報保障とも言える)

情報が「必要か」「必要ではないか」の判断

誰が行うのか？

講義をする先生

支援者

通訳者

聴覚障害者自身

情報保障で必要な「情報」とは？

- ・講義の内容
- ・連絡事項
- ・災害情報
- ・先生の指示
- ・友人の発言
- e t c
- ・先生のくだらないオヤジギャグ
- ・おしゃべりでうるさい後ろの学生
- ・遅刻した生徒が教室後方から入ってきた音
- ・誰かの携帯の着信音
- ・急に降り出した雨音
- ・先生の口癖「あのお～そのお～」

常日頃から情報感覚を磨こう **求めていくべきこと**

- ・「見える」情報を共有にする（双方とも）。
- ・聴覚障害学生自身が、理解し、社会に対して説明し、求めていく力を身につける。

- ・情報が存在することにすら気づかない人間にならないように。
- ・情報や手がかりがどんな意味を持っているのか。
- ・自分がどんな社会的バリアにぶつかっているのか。
- ・現実的にどのようなサポートがあればよいか。

心がけること

- ・聴覚障害者と聴者（支援を行う人・一緒に学ぶ人・働く人など）との話し合いが大切である。
- ・「支援される側の考え・論理」と「支援する側の考え・論理」をお互いに理解しようとする姿勢を持つ。
- ・「支援される側」も「支援する側」もコミュニケーションが成立する「手間暇」を工夫し、お互いにハッピーになれるような関わり方を考えていく。